

こちら 道立羽幌病院 小児科です

こんにちは。私は北海道立羽幌病院小児科の須貝雅彦といます。もしかしたら何度かお会いした方もいるかもしれませんね。これから毎月、広報誌のスペースを少しお借りして、子どもの症状の見分け方やその対処について話したいと思います。

1回目は「熱」についてです。い場合は・・・なぜ、熱は出るのでしょうか。全身状態(活気、食欲など)その多くは病原体の侵入にが低下している。対する体の防衛反応です。子どもが3カ月未満である。

病原体には大きく分けて ウイルス(いわゆる「かぜ」の仲間)、と細菌の二つがあります。子ども熱のほとんどがウイルスによるものです。いずれも平熱では活動性がありますが、38 を超える高熱下では増えることができません。ですから熱をだすことによってからだを守られていると考えることができます。具体的な体温の目安としては、40、40.5 以下の熱で、危険な病気の徴候が他に何もなければ、それはまずウイルス性の病気への正常な反応に過ぎないことがほとんどです。

しかし、すべての熱が心配のないもの、と考えているわけではありません。熱のときに注意しなければならぬ

熱が40.5 を超えている。熱とともに他の症状が伴っている。

このような場合です。

この場合はそれだけで病院に相談する十分な理由になります。 の場合はその症状によって対応が変わります。

次回はその事について話したいと思います。

時間外外来のかかり方について

時間外に外来受診をする場合は、あらかじめ病院に連絡をいれるようにしましょう。そうすることによって、病院もカルテなどをあらかじめ準備し、来院されてからの無駄を少なく診療することができます。